

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

実施機関名（主事業の実施機関名）	宮崎県西臼杵支庁
ふ り が な	じんだいがわかわまちづくりじぎょう
1. 事業(施策)の名称	神代川かわまちづくり事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成23年8月 ～ 令和6年10月
3. 事業費(工事費)	約710百万円
4. キーワード	かわとまちの一体化、川・景観の再生
5. 事業概要	
高千穂町は、天孫降臨の神話の舞台として、日本文化の根源に位置しており、なかでも町の中心を流れる神代川の川沿いには神話にも登場する天眞名井(あまのまない)という泉があり、かつては豊富な水量を誇り、炊事・洗濯としての生活用水や醸造酒用の水、子供たちの水遊び場として利用するなど、人々の生活と神代川は密接な関係だった。 その一方で、浸水被害も多い河川であったことから、昭和47年に治水面を最優先した河川改修を実施したことにより、コンクリート三面張りとなってしまう、人は川から遠ざかり、川の生き物も住みにくい環境へと変わってしまった。 そこで、宮崎県、高千穂町、推進協議会や検討委員会、地域住民が連携して、自然豊かな川の復活と、川を活用した観光振興、地域のにぎわいの創出を目指し、神代川かわまちづくり計画書を策定し、課題解決に取り組んだ。協議会、検討委員会でワークショップを重ね、県の主体事業として、神代川の河川改良を、町では、連携して河川周辺の散策路の整備及び周辺のまちづくり事業を、地元住民は清掃活動等に取り組んだ。これらの取り組みは、環境・景観の再生や地域の活性化につながった。 また、神代川河川改良事業に伴う、眞名井橋の架け替えでは、これから長く地元へ愛される施設となるよう、地元小学生が橋名板の制作を行った。	

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)事業連携 () () ()	(a)住民参画(ワークショップ等) (b)行政と住民・企業・学識者との協働(パートナーシップ) (c)情報発信(インターネットの活用) ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(e)良好な景観形成の実現 (i)環境保全対策 () () ()	(f)地域の活性化(にぎわいの創出、地域振興を含む) () () ()

7. 特にアピールしたい点

【良好な景観形成の実現】

直線的だった河道を蛇行させ、河床については、擬岩コンクリートを活用し、天然の岩盤に近づけて仕上げた。また、デザインの細部については、試験施工の現場で議論を行い決定し、施工時には溶結凝灰岩のなめらかさをできるだけ再現できるよう、留意した。護岸については、自然石を使った石積みに改修し、階段も設置することで、川に親しみやすい護岸が実現できた。石積み護岸の効果として、出水時の流速を遅くする治水的効果も期待される。水生生物の住みかも無かった三面張りの護岸だったが、擬岩工をオーバーハングさせて施工し、生き物の住みかを創出した。

【行政と住民・企業・学識者との協働（パートナーシップ）】

専門家等を交えた河川再生検討委員会（かわづくり）と、地元の人々が中心となったかわまちづくり推進協議会（まちづくり）を定期的に開催し、技術面での意見と利用者の立場からの意見をそれぞれ取り入れながら事業を推進した。具体的には、河川の法線、水の流れ、護岸の形状、河床の整備等を検討しており、景観模型による事業説明や、水理模型実験による水理検討の他、現地で4種類の試験施工をし、委員会・協議会、さらに地元住民等を招いた現場見学会を開催し、意見を細部デザインに反映しつつ、施工業者も創意工夫を凝らし、徐々にバージョンアップしていった。

【住民参画（ワークショップ等）】

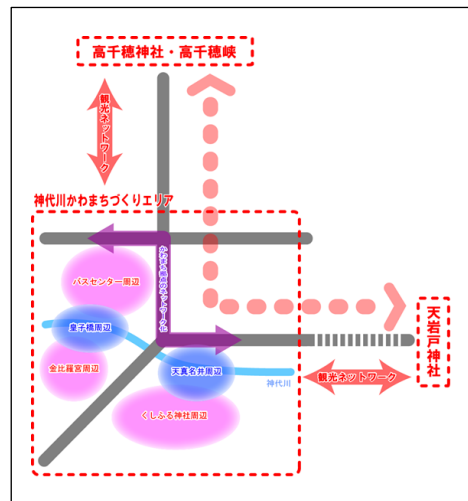
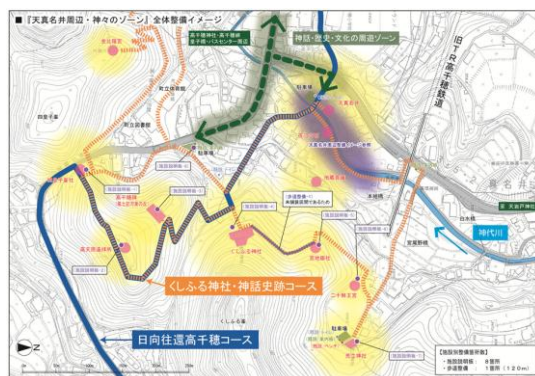
ブログによる情報発信や、地元説明会や現場見学会等を定期的に開催すると、幅広い情報発信と事業に対する理解の醸成に努めている。また、橋名板の文字は地元小学生の文字が採用され、小学校と連携した出前講座を定期的に行っている。

8. 事業を代表する写真及びキャプション

「神代川かわまちづくりエリア」は、高千穂町の主要な観光資源である「高千穂神社・高千穂峡」や「天岩戸神社」との間に位置する。

このルート上に位置する「神代川かわまちづくりエリア」を対象区域として位置付け、宮崎県と高千穂町との緊密な連携のもと、地域の人びとが高千穂地域の環境と景観の再生を機に、川とともに生きることの喜びを取り戻し、またこの地域を訪れる人びとに日本文化の原風景の体験を共有できるように、川とまちとが一体となったまちづくりを行った。

また、高千穂町における観光資源のネットワーク化による回遊性を確保し、滞在型の観光に向けた取組にも寄与する整備を行った。



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【良好な景観形成の実現】

- ・河道の蛇行(落差工やワンドを配置し、昔の蛇行した川の姿を再生)
- ・河床・護岸の改良(阿蘇の溶結凝灰岩をイメージした擬岩コンクリート河床と自然石積護岸を整備)
- ・緑地公園の整備(管理用通路を散策路として整備し、休憩施設を配置)

整備前



瀬や淵の自然な形成を促すため蛇行部を形成

整備後



植樹、東屋、ベンチを設置
(まちづくり)

【環境保全対策】

整備完了後の令和7年1月に改修区間の上下流を含めた一連区間において、生物生息状況調査(鳥類、哺乳類)を実施したところ、整備前の生物調査(平成27年調査)と比較して、新たな種が複数確認されるなど、神代川の河川環境整備による環境保全、生態系回復を確認できた。今年度も魚類、底生動物、両生・爬虫類の調査を実施中であり、モニタリングを継続しながら神代川河川再生事業による生態系ネットワーク形成や自然再生状況を注視していく。

整備完了後、新たに確認された種



ムササビ(重要種)の糞



ルリビタキ(重要種)



タシギ



ツグミ

【行政と住民・企業・学識者との協働(パートナーシップ)】

河床の擬岩コンクリートや石積み護岸の仕上がりは、試験施工の状況を検討委員会や現場見学会で確認し、関係者間でイメージを共有しながら決定した。



式3 P5

検討委員会、地元見学会による現場確認

【住民参画(ワークショップ等)】

地元説明会や現場見学会を定期的で開催するとともに、史跡巡りや清掃活動などを行った。また、小学生を対象とした出前講座では、水辺の環境調査を実施するなど川と地域の人々とのつながりを強くする取り組みを進めた。



地元の方々と史跡巡り



出前講座



橋名板(地元小学生の文字)



地元による清掃活動